

令和7年度 兵庫県農業気象技術情報第1号（5月情報）について

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲	全県共通	<p>1 生育</p> <p>気温は、平年並から高いと予想されている。降水量は平年並から多く、日照時間は平年並から少ない見込みである。日較差（寒暖差）の大きい日が多くなる見込みであり、ハウス育苗では特に留意する。</p> <p>種子予措では適切な水温及び浸種時間を確保し、十分に催芽させて播種する。播種はうす播きにし、育苗時の温度管理と灌水に留意するとともに、軟弱徒長しないように健苗の育成に努める。</p> <p>白化苗を防止するため、緑化前の苗では寒冷紗等で、3～4日被覆し、徐々に馴らす。</p> <p>ムレ苗を防止するため、トンネル内の換気に努め、急激な温度変化を避ける。</p>	
		<p>2 病虫害</p> <p>苗いもちの発生に留意する。</p> <p>苗立枯病は育苗培土中の伝染源により発生し、育苗期の急激な温度変化により助長される。</p> <p>水田周辺において、斑点米カメムシ類の越冬世代虫の発生を確認している。今後の高温により増殖が懸念される。</p> <p>ヒメトビウンカの越冬世代虫の発生がみられている。今後の高温により増殖が助長され、平年よりやや多い発生が予想される。</p> <p>スクミリンゴガイの発生地域では、移植直後の被害が懸念される。</p>	<p>2 病虫害</p> <p>種子消毒時の薬液の温度が10℃以下にならないように管理する。水替え時に種子を洗わないようにする。種子消毒については「令和6年度病虫害発生予察防除情報第9号」（令和7年2月4日発表、兵庫県病虫害防除所ホームページに掲載中）参照。</p> <p>苗いもちの発生を防ぐため、もみ殻・わら等の伝染源は周囲から除去するとともに、トンネル内の適切な換気に努め、過湿を避ける。また、夜間の過湿を避けるため、夕方の灌水はしない。さらに、苗いもちが発生したら、速やかに除去すると共に薬剤防除を行う。</p> <p>苗立枯病の発生を防ぐためには、発生前に薬剤防除（薬剤の培土混和や灌注処理）を行い、適温を保つように管理する。</p> <p>本田に侵入する斑点米カメムシ類の密度を下げるため、雑草の草刈りや除草剤散布などの水田周辺の管理に努める。</p> <p>イネ縞葉枯病が前年に発生した地域については、媒介虫であるヒメトビウンカ対策のため、育苗箱施用の殺虫剤を処理するなど、移植直後からの防除を徹底する。</p> <p>スクミリンゴガイの発生地域では入水口の侵入防止や移植後の薬剤処理を行う。</p> <p>上記の薬剤防除は「病虫害・雑草防除指導指針」を参考に適正に実施する。</p>

麦	全 県 共 通	<div>1 生育</div> <div>冬季の低温の影響で、出穂期は、播種時期により差がみられるが、平年に比べて6日遅れとなった。</div> <div>今後もまとまった降雨に備えて排水溝の手直しを徹底し、排水対策に努める。特に、乗用管理機による赤かび病防除後は、車輪で崩れた排水溝の手直しをしっかりと行う。</div> <div>成熟期は平年並みからやや遅くなると予想されるので、子実水分20%以下を目標に、適期収穫に努める。</div> <div>農業技術センター(加西市)における生育状況</div> <table><tr><td></td><td>本年^{※1}</td><td colspan="2">平 年^{※2}</td></tr><tr><td></td><td>出穂期</td><td>出穂期</td><td>成熟期</td></tr><tr><td>シロガネコムギ</td><td>4月15日</td><td>4月9日</td><td>6月2日</td></tr></table> <div>※1 播種は 11月11日 (平年比+2日)</div> <div>※2 平年は直近7ヶ年から最高・最低を除いた平均値</div>		本年 ^{※1}	平 年 ^{※2}			出穂期	出穂期	成熟期	シロガネコムギ	4月15日	4月9日	6月2日	
			本年 ^{※1}	平 年 ^{※2}											
	出穂期	出穂期	成熟期												
シロガネコムギ	4月15日	4月9日	6月2日												
		<div>2 病害虫</div> <div>今年は、出穂期が平年より遅かったが、その後に定期的な降雨があった。</div> <div>今後、気温は平年並から高く、降水量は平年並から多い予想で一定の降雨が見込まれているため、適期防除ができなかった圃場では、赤かび病の発病に十分に留意する。</div>	<div>2 病害虫</div> <div>赤かび病の発病を未然に防ぐために、小麦、大麦ともに1回目の薬剤散布から10日後に2回目の薬剤散布を行う。「令和7年度病害虫発生予察防除情報第3号」(令和7年5月2日発表、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載中) 参照。</div> <div>イネ縞葉枯病の媒介虫であるヒメトビウンカは麦で増殖するので、昨年、発生が多くみられた地域においては薬剤散布等で麦におけるヒメトビウンカの増殖を防ぐことが望ましい。</div>												
キャベツ	全 県 共 通	<div>1 生育</div> <div>(1) 初夏どりでは、肥料切れを起こさないようにする。</div> <div>(2) 降雨による滞水を避ける。</div> <div>(3) 降雨がなく乾燥が続く場合、球内のチップバーンの発生に注意する。</div> <div>(4) 生育適温下での降雨等により、急激に結球肥大が進むと裂球の発生が懸念される。</div>	<div>1 生育</div> <div>(1) タイミングを逃さないよう適期に追肥を行う。</div> <div>(2) 落水口への確実な連結により排水性を高める。</div> <div>(3) 10日以上降雨がない場合、畝間灌水等を行う。作土が浅いほ場では特に土壌の乾燥に注意する。</div> <div>(4) 春キャベツでは8分結球程度で、初夏どりでは締まり具合を確認し、球のしまったものから順次収穫する。</div>												
		<div>2 病害虫</div> <div>菌核病、コナガの発生はいずれも平年並の予想である。アブラムシ類はやや多い発生が予想される。フェロモントラップでは4月初から、コナガ成虫の誘殺がみられている。</div>	<div>2 病害虫</div> <div>「令和7年度病害虫発生予報第1号」(令和7年4月18日発表、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載中) 及び「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に適正に防除する。</div>												

果樹	全 県 共 通	1 生 育 (1) 生育は県北中部では昨年比で遅く、平年比で遅い。県南部では昨年比で遅く、平年比で遅い。（樹種の差有）	1 生 育 (1) 生育進度に合わせて着果管理や防除の時期を見極め、適期管理に努める。
		農業技術センターにおける樹種別の生育状況	
		クリ※ ¹	展葉は昨年比 3 日遅い（平年比 4 日程度早い）
		ブドウ※ ¹	発芽、展葉ともに昨年比約 2 日遅い（平年比 2 日程度遅い）
		ナシ※ ²	満開期は昨年比 3 日遅い（平年比 2 日遅い）
		温州ミカン※ ³	早生温州の発芽は昨年比16日遅い（平年比8日遅い）
		※ 1 加西市 ※ 2 朝来市 ※ 3 南あわじ市	
		(2) ナシ（北但地区）では開花期の天候の影響を見極めた結実管理に努める。 (3) 幼木は乾燥による生育不良にならないよう留意する。 (4) 晩霜害を受けた園では適切な対応を行う。	(2) 摘果時に障害果等の判別を慎重に行う。 (3) 土壌が乾燥する場合は、灌水を行う。 (4) 晩霜害等による被害果がある場合は、果実を見極めるため摘果を遅らせる。 凍害を受けたクリ、サンショウ、イチジク樹では、発芽、展葉が健全な部分まで早めに切り戻し、新梢伸長を促す。
		2 病害虫 果樹カメムシ類の発生量は隔年性があり、本年は発生が少ない年に該当する。しかし、気温の上昇した4月中旬にフェロモントラップにおいて、チャバネアオカメムシの誘殺数が多い傾向を認めている。今後、気温の上昇に伴い、園地への飛来が助長されるので留意する。	果樹園への飛来量や飛来時期は、周辺環境の影響を大きく受けるため、地域や園地によって異なるが、山林に近い園地では飛来量が多い傾向にあるため、特に注意する。発生や被害を認めたら、速やかに薬剤による防除を行う。「令和7年度病害虫発生予察防除情報第2号」（令和7年5月2日発表、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載中）及び「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に適正に防除する。

◎水稲・麦の栽培については、「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針」を参考にすること。

※本情報は、5月2日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう 1 か月予報

近畿地方 1 か月予報 (05/03～06/02)			
2025年05月01日14時30分 大阪管区気象台 発表			
向こう 1 か月 05/03～06/02	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	
	気温	平均気温は、平年並または高い確率ともに 4 0 %です。	
1 週目 05/03～05/09	気温	1 週目は、平年並の確率 5 0 %です。	
2 週目 05/10～05/16	気温	2 週目は、平年並または高い確率ともに 4 0 %です。	
3 ～ 4 週目 05/17～05/30	気温	3 ～ 4 週目は、平年並または高い確率ともに 4 0 %です。	

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう 1 か月 05/03～06/02	<div><div>20</div><div>40</div><div>40</div></div>
		1 週目 05/03～05/09	<div><div>30</div><div>50</div><div>20</div></div>
		2 週目 05/10～05/16	<div><div>20</div><div>40</div><div>40</div></div>
		3 ～ 4 週目 05/17～05/30	<div><div>20</div><div>40</div><div>40</div></div>
降水量	近畿地方	向こう 1 か月 05/03～06/02	<div><div>30</div><div>30</div><div>40</div></div>
日照時間	近畿地方	向こう 1 か月 05/03～06/02	<div><div>40</div><div>30</div><div>30</div></div>

低い(少ない) 平年並 高い(多い)

(2) 近畿地方の向こう 3 か月予報

近畿地方 3 か月予報 (05月～07月)			
2025年04月22日14時00分 大阪管区気象台 発表			
05月～07月	気温	平均気温は、高い確率 6 0 %です。	
05月	天候	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	
	気温	気温は、平年並または高い確率ともに 4 0 %です。	
06月	天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	
	気温	気温は、高い確率 6 0 %です。	
07月	天候	期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	
	気温	気温は、高い確率 5 0 %です。	

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	05月～07月	<div><div>10</div><div>30</div><div>60</div></div>
		05月	<div><div>20</div><div>40</div><div>40</div></div>
		06月	<div><div>10</div><div>30</div><div>60</div></div>
		07月	<div><div>20</div><div>30</div><div>50</div></div>
降水量	近畿地方	05月～07月	<div><div>30</div><div>30</div><div>40</div></div>
		05月	<div><div>30</div><div>40</div><div>30</div></div>
		06月	<div><div>30</div><div>30</div><div>40</div></div>
		07月	<div><div>30</div><div>40</div><div>30</div></div>

低い(少ない) 平年並 高い(多い)

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い（少ない・平年並・多い）の 3 階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間（1991～2020年）における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「兵庫県病虫害防除所（病虫害発生予察情報）」
<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp>
- ・「病虫害・雑草防除指導指針」
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・「兵庫県総合防除計画」
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農林水産部農産園芸課 TEL (078) 341-7711 (代表)
農産班: 主作・機械担当 内線4074
農産班: 野菜担当 内線4054
花き果樹班 内線4067

技術内容に関すること

- ・兵庫県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410
農業技術センター 病虫害部 TEL (0790) 47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880